

平成29年度市政懇談会 開催結果概要

- 日時 平成29年6月27日(火)午後6時～
- 会場 まなぼっと幣舞 802・803号室
- 出席者 19人

〔市長より説明 (別途資料参照)〕

○将来を見通したまちづくり

- ・ 釧路市の台所事情
- ・ 釧路市の人口推移
- ・ 雇用を生み出す産業の強化
- ・ 子どもを生み育てたいという希望をかなえる
- ・ 「世界一級の観光地」を目指して
- ・ 阿寒湖アイヌ施策の推進
- ・ 安心な暮らしをつくる
- ・ 人口減少に対応した地域をつくる
- ・ 釧路市まちづくり基本構想等の策定について

〔事前調査による地域からのご意見等〕

■統合型リゾート（IR）におけるカジノの必要性について

自然を中心に据えた観光事業に、カジノの必要性を感じない。このことについて市長の考えを聞きたい。

【市長】

IRとはカジノに加え、ホテル、MICE（会議施設、展示場等）、レストラン、ショッピングモールやエンターテインメント施設等、地域における様々な観光資源を複合開発する総合的な観光施設です。

この地域が釧路、十勝、オホーツクという東北海道の中心に位置し、釧路、帯広、女満別の3空港からも近いことから、観光立国ショーケースや国立公園満喫プロジェクトを活用しながら阿寒湖周辺を通過型から滞在型の観光地に転換していきたいと考えています。それを牽引する大きな魅力の一つとしてIRという新たな旅行目的ができることは、東北海道全域にもプラスの影響が波及していくと考えています。

阿寒湖畔には手付かずの自然があり、先住民族であるアイヌの方々の文化を発信する最大のコタンもあるので、そういった強みをしっかりと活かしながら、ヨーロッパ型、世界水準のIRの機能を活用していこうというものです。ヨーロッパ型とは、豊かな自然や伝統文化と共存した、小規模ながら様々なリゾート機能をもった複合施設のことです。

滞在型観光を進め、宿泊形態が1泊から2泊になるだけでも、地域への波及効果はかなり大きなものがあります。IRによって社会インフラ、交通インフラの充実も図られるようになれば東北海道全域の活性化に繋がります。

世界140カ国でごく普通にある施設ということをご理解いただきたい。

●意見交換

【参加者A】

DMOとは何ですか。

【市長】

簡単に言うと、観光事業の舵取りを担う法人のことです。

【参加者B】

「雇用を生み出す産業の強化」の項目についてですが、男女平等参画に関する企業の意識調査をしたら、働き方の見直しには非常にメリットがあるという捉え方をしていることがわかりました。業務量が多いけど人が少ないなどの問題がある中で、企業に業務改善のノウハウがありません。イギリスなどでは、行政で予算を取って企業への支援をしています。コンサルタントを雇って派遣するなど、企業としての体力を付けていく、考え方を変えていく、そのような基本からの支援を行ってほしいです。

【市長】

この項目については、外から稼ぐということで、販路開拓など、売り上げアップをポイントとして捉えています。そのための商談会などが主になっています。組織の構造を変えるような支援までは議論が至っていません。女性の創業支援など、セミナー等を開催していく中で、必要性があるかを探り、釧路商工会議所、北海道中小企業家同友会釧路支部と連携しながら体制を作っていきたいと思います。

【参加者A】

釧路の税収が少ないのはなぜでしょうか。どうして帯広と差が出てきているのでしょうか。

【市長】

簡単に言うと、釧路は所得が低く、帯広は所得が高いということです。帯広は、畑作と酪農が基盤であり、農業が地域に根付いています。この農業をベースに、地域で連携し、いろいろなことに取り組んできた歴史があります。釧路の産業は、石炭、水産、紙パルプがあり、いろいろ恵まれていました。産業を取り巻く環境は変化しましたが、水産を例に出していえば、現在、漁獲が減ってきていても、まだ活用できるものはあると思います。今あるもの、この地域の財産を活かしながら、収入を増やしていくことが重要であると考えています。

【参加者C】

釧路川左岸の違法係留と北大通の空きビルについて、市としてどういう考えを持っているのか聞きたいです。

【市長】

違法係留については、釧路漁業協同組合に入っている人と、入っていない人がいるという状況ではありますが、組合と連携して、所有者を特定して取り締まっていきたいです。現状では、個別に対応していくしかないと考えています。

【都市整備部長】

北大通の空きビルについては、所有者が責任を持って対応をとらなければならないのが原則です。今後も、所有者と定期的に連絡を取り、粘り強く説明、対応をお願いしていきたいと思っております。

【市長】

空き家対策について、空家等対策の推進に関する特別措置法により、特定の空き家を手順を踏んで公金で取り払うことはできますが、取り払った後の更地は所有者のものになります。行政の財産になるのであれば、対応するにしても市民の皆さんの理解が得られると思います。国に対しても、こういった話をしていきたいと思います。市民の安全を守るためにも、しっかり対応を考えていきたいです。

【参加者C】

市の立場は分かりましたが、もし空きビルの近くを歩いている人がけがをしたり、何か問題が起きたりしたらどうしますか。空きビルも、違法係留もそうですが、所有者がごね得みたいな感じになっており、対応が全く進展していないように思います。

【市長】

行政の対応は、法律の範囲内でしかできません。昔、沈没船を撤去したら、損害賠償を請求されたことがありました。リバーサイドは漁業者が作業をする場所なので、現実の状況を見て、法律の範囲内で目に見えるような対策をしていきたいです。いろんな場面で、粘り強く話をし、市民の安全・安心への対策をしっかり取っていききたいと思っております。

【参加者D】

駅北側から北大通へ出るには、跨線橋、歩道橋、地下道のどれかを通ることになりますが、とても大変です。なんとか駅北側と北大通を繋いで、歩いて市役所方面に行けるようにしてほしい。また、白金町のホテルが空きホテルになったまま放置されています。子どもたちが出入りしていることもあり、110番通報しても、警察は見るだけで何もしてくれません。火事も心配です。市役所でなんとかできないものなのでしょうか。

【都心部まちづくり担当部長】

現在、駅を含む都心部の全体のまちづくりについて、議論を進め、いろいろな検討を始めているところです。その中に、理想的なまちづくり、防災に強いまちづくりをするためには、高架化も含めた駅周辺の整備があります。7月中旬以降に、どのようなまちにしたいか、都心部のまちづくりについて

意識調査をする予定です。また、意見交換などもしながら、平成30年度末までに都心部のまちづくり計画をまとめて、皆さんに提示していきたいと思っています。

【都市整備部長】

空きホテルについては、危険の無いようにしっかり保全していきたいと思っています。また、火事の心配もありますし、青少年が出入りしているようであれば非行の温床になりかねませんので、警察と協力して対策を進めていきたいと思っています。

【市長】

駅の高架化は、昭和40年から議論されています。東日本大震災を受けて、北海道で作成したシミュレーションによると、釧路市中心部は最大で9.6メートルの津波予測になっています。市民の命を守るためにも、車で逃げる時の道を確保するなど、どういったまちづくりを行っていくのか、しっかり計画を立てたいと思っています。